

令和 5年 8月 2日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
多治見市立笠原小学校（外 校）	多治見市教育委員会	国・ <input checked="" type="radio"/> 公・私

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
多治見市立笠原小学校	http://school.city.tajimi.lg.jp/s-kasahr/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
多治見市立笠原小学校	http://school.city.tajimi.lg.jp/s-kasahr/	http://school.city.tajimi.lg.jp/s-kasahr/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

当該校ではALTが常勤しており、担任との綿密な打合せを十分におこなって授業を行うことができている。また、ネイティブスピーカーで、経験、アイデアともに豊富なALTのもとで、日々の英語教育の充実が図られている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

学校評価における児童の自己評価は以下のような結果となっている。

◎英語の授業は楽しく、自分のためになっている

「そう思う」62.6%、「どちらかといえばそう思う」29.5%と、肯定的な評価は合計92.1%という高い評価になった。一方、「どちらかといえばそう思わない」6.0%、「そう思わない」1.8%と、否定的な評価は合計7.8%となった。児童の意識では、昨年度よりも肯定的な評価が0.5%上がった。

また、保護者の評価は以下のようにになっている。

◎子どもは英語活動のよさを感じて前向きに取り組んでいる

「そう思う」35.0%、「どちらかといえばそう思う」51.4%と、肯定的な評価は合計86.4%という高い評価になった。一方「どちらかといえばそう思わない」10.9%、「そう思わない」2.7%と、否定的な評価は合計13.6%となった。保護者の意識も、昨年度より肯定的な評価が3.4%上がった。今後とも、英語の授業を通して褒めて伸ばすよう職員的意思統一を大切にする。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

当该校は「心の宝物に満ちた学校」を経営方針として「やさしく かしこく たくましく」の教育目標の具現をめざしている。今年度も知・徳・体のバランスのとれた児童の育成のためには、一人一人の児童の内に確かな自己肯定感を育むことが最重要であるととらえ、全教職員の意志を一つに実践している。

また、今年度も研究主題を「生き生きとコミュニケーションを図る児童を育てる指導の工夫～笠原型コンテンツ・ベイスト」の手法を用いた授業づくりと、適切な評価の在り方～とし、研究推進に取り組んできた。

笠原型コンテンツ・ベイストとは、「伝え合う内容を重視し、問題解決的な活動により、伝え合う必然を生み出す」指導方法を探求するものであり、「問題解決的な活動により『聞く・話す・読む・書く』必然を生み出すとともに、コミュニケーションへの意欲を高める目的・場面・状況の設定」「児童の意欲、関心が高い学習事項を生かした題材」「驚きを発見、気づきが生まれ、伝え合う値打ちの高い内容」という3点から児童の育成を図っている。活動を通してコミュニケーションのよさ、自他のよさに気付く機会が増え、ものごとをとらえる目や伝えようとする言葉も豊かになっており、大きな成果となっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は低学年から、全学年を通じて系統的に教科（外国語科）としての外国語の学習を実施している。そのことにより、小学校における外国語教育の一層の充実を図ることができると思う。その中で、児童一人一人のコミュニケーション能力を伸ばすとともに日本や諸外国の文化の理解を広げ、深めることを通して、将来、国際的な活動に参加できる資質・能力を育むことができると思う。このことは、教育基本法第2条第2号、

同条第 5 号及び、学校教育法第 21 条第 3 号に掲げる教育の目標に関する規程に適合している。

4. 課題の改善のための取組の方向性

研究開発学校としての使命は終えているが、特別の教育課程の編成・実施を行う中で、「外国語科」の実践の継続と、その検証を実施していく必要がある。

また、児童の学校評価項目に「英語の授業は楽しく、自分のためになっている」、保護者の学校評価項目に「子どもは英語活動のよさを感じて前向きに取り組んでいる」を設定することによって、その指標を継続的に確認し、日々の授業改善に努める必要がある。